

第1特集

プライマリ・ケア 整形外科 OSCE

整形外科疾患のツボを OSCE で学ぼう

プライマリ・ケアの現場では多種多様な症状の訴えを取り扱う必要がありますが、内科や総合診療・家庭医療を中心に診療される先生方から、整形外科疾患のアプローチがよくわからない、どこまで自分がかかわって、どこからが紹介すべきかの線引きが難しいといった意見をよく聴きます。

プライマリ・ケア領域に占める整形外科疾患の割合は比較的高く、このエリアへのアプローチ力を高めることは臨床医にとって、日々のストレスを減らすことになると思われます。

岡山家庭医療センターでは家庭医療・総合診療専門医コースの専攻医教育に年2回の整形外科 OSCE を実施して、専攻医と指導医の整形外科疾患へのアプローチの標準化、疑問点の解決、日々の診療への適応を心がけています。

私がアメリカの家庭医療専門研修時代に活用していた整形外科マニュアル¹⁾を以前翻訳したこともあり、この本をベースに日本の文脈でよくある腰、膝、肩の整形外科疾患の問題を「整形 OSCE ベーシック」として扱い、次に求められる肘、手、足の問題を「整形 OSCE アドバンスド」として毎年行っています。本特集では日本プライマリ・ケア連合学会の秋季セミナーで過去に提供した内容をベースに誌面上で読者の皆様に整形 OSCE を体験していただくことで、疑似的に診療のスキルを学んでいただき、日々の臨床に活かしていただければと思います。

誌面では難しい診察手技については、岡山家庭医療センターで教育に活用している動画を共有していますので(p.62)、ぜひ動画も参照しながら誌面での整形 OSCE を楽しんでいただければと思います。

日本のプライマリ・ケアにおける整形外科疾患の対応力向上に少しでもお力になれば幸いです。

編集幹事

社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター
奈義・湯郷・津山ファミリークリニック

松下 明

参考文献

- 1) Bruce Carl Anderson (著), 松下 明, 他(訳): プライマリケア整形外科マニュアル 原著第3版 ―外来で整形疾患をみるすべての人へ, エルゼビア・ジャパン, 2008.